

陶磁器にまつわる歴史エピソードを紹介
秋季特別展 **「殿さまとやきもの」** 展開催

■ 尾張徳川家に伝わる陶磁器を中心に、**重要文化財4点**を含め、**約170件**を展示。

■ 尾張徳川家が代々 記帳・管理してきた台帳くらちょう（蔵帳）を読み解き、**近年の価値だけではなく、江戸時代当時の価値や用途を解説。**台帳が語る、知られざる意外なエピソードを紹介。



家康の膨大な遺産分けを記録した貴重な台帳（駿府御分物御道具帳）

信長の指紋がきっとなついている歴史ロマンたっぷりの壺



唐物茶壺 鈍松花 大名物 中国・南宋～元時代 13～14世紀 重要文化財

安土城の天守が完成した祝いに信長に贈られた「天下の名器」と言われた最高級の茶壺。安土城の中に確実にあったということがわかる唯一の道具。その後、秀吉、家康の手に渡り、三英傑に愛された。

時代を越えてはな いけ 波乱万丈に生きた花生



青磁球形瓶 中国・南宋時代 12～13世紀 重要文化財
Image:TNM Image Archives

尾張初代当主 義直の道具として、**最上級の名品**だったが、明治時代に誤って「**下級品**」と鑑定され、昭和初期に嫁入道具として尾張家から持ち出され、後に美術商に**売却**された。美術商の寄贈によって東京国立博物館所蔵となり、**価値を見出されて重要文化財**となった。

器の作り以上に高い価値がついた家康所有の名物茶碗



染付唐草文茶碗 銘 荒木 中国・明時代 16世紀後期

戦国武将・荒木摂津守村重が所持し、後に徳川家康から尾張家初代 義直に伝えられ、**最も格の高い茶道具**として大切に扱われた。碗そのものは中国南方系窯の**粗製**だが、日本の茶の湯と大名文化の中で**新しい価値**を付加された例のひとつ。

秋季特別展

「殿さまとやきもの」
— 尾張徳川家の名品 —

- ・会 期：2019年9月15日（日）～11月10日（日） ・時 間：10時～17時（入館は16時半まで）
- ・休 館 日：月曜日（祝日の場合は直後の平日）
- ・料 金：一般 1,400円 高大生 700円 小中生 500円 ※毎週土曜日は小中高生無料
- ・主 催：徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 中日新聞社 日本経済新聞社
- ・協 力：名古屋市交通局

プレス内覧会

日 時：9月14日（土）午後1時30分～
場 所：徳川美術館 講堂
内 容：展覧会 概要説明（学芸員/長久 智子）

関連イベント

記念講演会
「名物が意味するもの — 尾張家伝来の茶道具にふれて」
日 時：9月15日（日）午後1時30分～
場 所：徳川美術館 講堂
講 師：竹内 順一氏（東京藝術大学 名誉教授）

※その他イベント情報は、展覧会チラシをご覧ください